

令和3年度 学校評価表(計画・中間・最終)
【 5月初旬・11月末・3月初旬 】

学校名(熊野町立熊野中学校)

a 学校教育目標	「前向き (Be positive.)」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	心豊かで確かな学力を備えた教育の推進 地域に開かれ、地域の期待に応え、地域から信頼される学校の創造 地域を愛し、地域から愛され、地域に生きる子どもの育成
-------------	-----------------------	-------------------------	--

評価計画(5月初旬提出)				自己評価					学校関係者評価			n改善方策			
c 中期経営目標 (3年後を見据えて)	d 短期経営目標 (今年度)	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	h 達成値	i 達成率	j 評価 A~D 4段階 評価	k 結果と課題の説明 (短期経営目標につ いての評価結果)	l 自己評価に関する評価 (関係者評価者の合計人数)			m コメント	11月	3月	
					10月	2月			i = h/g 達成度	イ 適正	ロ 不適正				ハ 分からない
学んで良かった学校 安心して学び確実に力をつけることができる。	【目標や価値の共有】 1 主体的に学ぶ授業づくりを核に、本校で育成したい「資質・能力」を育成する。(資質…協働, 前向き 能力…自己分析力, 表現力, クリティカルシンキング) 2 生徒会執行部を中心に、本校の伝統の継承と発展、創造を目指して取り組み、SSR等を機能させ個に応じた学びの機会を選択できることで安心して通え、更に充実して学べる学校にする。	1-①タブレット端末活用等個別最適な学びを取り入れ学力の定着を図る。	個々の生徒の各種学力調査結果の向上	80%	未定	96.0%	120.0%	A	○全国比が3年生は98.8%, 2年生は108.2% ○●3年生1教科, 2年生4教科で昨年度より向上	4	0	2	△全国平均より大幅に落ち込まないことを期待する。 △目標値は100%が適切ではないか。	・引き続き、タブレットや電子黒板を授業等で積極的に活用する中で、ICT活用の効果を見取っていく。	・目標値については再考する。今後も全国比110%を目指し、学力向上に努める。
		1-②PBLや質の高い問いの工夫により「資質・能力」の育成を図る。	生徒のメタ認知評価	100%	6月 76.4%	77.7%	77.7%	C	○中間評価より肯定的な評価の割合が3.4ポイント上昇 ●表現力も上昇したが、70.9%	5	1	0	○メタ認知ができていない生徒ほど、値が低くなる面もある。 ●目標値が高すぎるのではないか。	・授業等において、発言・記述等様々な方法で、生徒が表現する場を増やしていく。	・メタ認知評価を継続するとともに、表現力に関する見取りについて研究を進める。
		2-①生徒の主体性を生かした活動を拡大し、企画力・実行力を育てる。	「学校は楽しい」への肯定的回答の割合	100%	6月 82.8%	86.9%	86.9%	B	○コロナ禍の中、行事や活動についてICTを活用し、工夫した取組を実施 ○中間評価より肯定的な回答の割合が5.8ポイント上昇	5	1	0	○コロナ禍の中、しっかりと取組を行っており、評価できる。 ●80%超ですごい数値ではないか。	・肯定的な回答をしていない2割弱の生徒を具体的に把握し、個を意識した取組を進める。必要に応じ、ケース会議も行っていく。	・引き続き、生徒会等を中心に、コロナ禍でも行事や活動が実施でき、充実するよう工夫する。
		2-②SSRの機能化を図る。			10月 81.1%										
働いて良かった学校 やりがいと喜びをもって取り組める。	【職能成長と働き方改革】 1 教職員として、やるべきことやりたいことをやり遂げる。 2 社会人として、無理や無駄のない働き方を求め、生活の充実を求める。	1-①目標の連鎖をさらに意識して業績評価シートを作成し、工夫して取り組む。	業績評価シートに位置付けた年間を通じた取組	100%	100%	100%	100%	A	○面談の中で、目標の連鎖について確認 ○教職員個々が意識して実践	5	0	1	○働きやすい環境が整えられている。 ●本音で回答することができているか、考慮必要。	・下半期も業績評価の目標を意識した職員個々の取組とし、学校教育目標の達成を目指す。	・次年度も業績評価を効果的に活用し、目標の連鎖を図る。
		1-②個々の教職員の取組を組織で支える。	個々の教職員の目標を理解した他の教職員による支援	100%	88.5%	100%	100%	A	○教職員間の支援体制は概ね構築	5	0	1	○働きやすい環境が整えられている。 ●本音で回答することができているか、考慮必要。	・分掌や学年を超えても支援体制がとれるよう、更なる情報共有に努める。	・引き続き、企画委員会や分掌会の報告を確実にし、情報共有を徹底する。
		2-時間外勤務の縮減とやりがいを両立させる。	時間外勤務(a)の縮減	月間(a)を80時間未満	79.7%	82.9%	82.9%	B	○教職員は退校時刻を意識して業務を遂行 ●時間外が多い教職員が固定化	4	0	2	○学校でできる取組を精一杯行っている。 ○80時間未満達成率ではなく、短縮時間を評価すべきである。	・月の時間外勤務時間の目標値を職員個々が設定することで、タイムマネジメントの意識を高め、縮減していく。	・指標、目標値について再考する。引き続き、タイムマネジメントの意識がもてるようにする。

j評価 A~D 4段階評価

A: 100 ≤ (目標達成)

B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100

C: 60 ≤ (もう少し) < 80

D: (できていない) < 60